



学園、大学の教職員が出席し開かれた年初式



教職員に年頭の挨拶をする後藤淳理事長

理事長は、穏やかなスタートを切った元日にふれて「この一年が（元日の天気のように）穏やかに続くことを願っています。昨年は学園にとって（創立百周年

という）非常に大きな年でした。大正元年、1912年に『名古屋電気学校』としてスタートを切り、第二次世界大戦後の学制改革で中学、高校、短大、続いて大学を開学し、今日の学園の基礎をつくりあげた。今年には次の百年に向けて、新たな気持ちで取り組んでいかなければなりません。学園は、昔から『ものづくり』を柱として取り組んでいます。ここ数年、モ

### 年頭挨拶

「ものづくり」を柱に、総合で強い愛知工業大学づくりを目指す

後藤淳理事長、後藤泰之学長が教職員に訓示

後藤淳理事長は一月七日、八草キャンパスの10号館大講義室で行なわれた年初式で学園、愛知工業大学の教職員を前に挨拶し、世界に通用するモノづくりが求められている日本の現状を踏まえ、「ものづくり」を基礎にした取り組みを訓示。また、後藤泰之学長は私学を取り巻く厳しい状況から総合力で強い愛知工業大学づくりを目指す一方、学生に「ものづくり」の感動を与える映画づくりに取り組む考えを明らかにしました。



愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高校  
愛知工業大学附属中学校

目次	
高校・中学年初式	2
年頭挨拶の要旨	3
後藤 紳二賞	4
高校定期演奏会	5
設置校入試概況	6
ロボット交流会	7
学内企業展ほか	8
発行所 名古屋電気学園 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247 Tel. (0565) 48-8177	



新しい大学像、映画製作などを語る後藤泰之学長

#### 学生にもものづくりの感動を

ノをつくっても売れない日本は今、世界に通用するモノづくりが求められています。本学の先生には学生の指導も含め『ものづくり』を基礎に置いた取り組みをお願いしたい。また、大学教育では先行きますます厳しい『少子化』問題の克服に取り組むことが、一番大きな目標です。教職員は力を合わせ、いい年になるよう頑張ってもらいたい」と強く訴えました。

学長は、「昨年執り行われた学園創立百周年の各行事を無事に終えることができました。理事長から『この百年間はけっして平坦でなかった』との話を聞いており、様々な困難を乗り越えて現在があると、先輩方のご苦労に感謝します。私

（理事長、学長の年頭挨拶要旨は三ページ目に掲載）

学を取り巻く厳しい状況はこれからも変らないと思います。それらを乗り越えるため本学は▽就職率が高い▽「ものづくり教育」が日本一（と私は自負）▽教育力もある—というほかにトータルとして強い大学を目指すことです。強い大学・愛知工業大学をこの先の一つの課題として一つ一つ積み上げていきたい。昨年、学園百周年に学生が今ひとつ盛り上がりがないという状況から『百周年で学生を巻き込んだ何かができないか』と思っています。大学開学五十周年記念事業で作った映画『築城せよ！』が、参加した学生には非常に良かった。こういうものが出来ないかと、本学客員教授の堤幸彦監督に（映画づくりの）話をして年度内に（具体化へ）と思っています。一人でも多くの学生へ参加を呼びかけ、プロの現場を体験させ、一つのモノを創り上げる感動を味わわせ卒業させたいと思っており協力をお願いしたい」と呼びかけました。

本年の仕事始めにあたり後藤淳理事長は愛工大情報電子専門学校で初めて年頭の挨拶を行い、教職員を激励しました。愛工大名電高校では年頭挨拶に続いて後藤淳理事長、後藤泰之学長も加わり、恒例の餅つきで新しい年のスタートに勢いをつけました。

**専門学校で**



専門学校で初めてとなる年頭挨拶で教職員を激励する後藤淳理事長

後藤淳理事長は一月七日午後、学園・大学の年初式を終えた後、専門学校で初めてとなる年頭挨拶を行いました。一階の教職員室で井研治校長、川出善晴事務長ら同校教職員を前に、「本校は開学にあたりいろいろ話もありましたが、情報化時代に備えて豊田市の

応援を得て出来ました。本校も二十年が経ち、皆さんにはこれから次の十年、二十年先に向けて頑張ってください。今年の志願者数が増えますが、四月に『良かった』と言えるように頑張ります。また、井校長も「昨年、皆さんや学園の力で本校創立二十周年記念式典ができました。後藤淳理事長に初めて仕事始めに来ていただき、教職員一同、喜んでいきます。志願者も皆さんの努力が増えており、こうした状況が続くよう今年一年、頑張ります」と教職員に話しました。

**高校・附中**

後藤淳理事長、後藤泰之学長は一月五日、若水キャンパス・南校舎地下一階大講義室で行われた高校・附中の合同職員会議に出席。会議に先立ち挨拶し、「昨



年頭挨拶で高校・附中の教職員に本年も部活動などで一層の活躍を、と激励する後藤淳理事長

年は学園にとり記念すべき一年でした。新年度はもっと、もっと先を見据え、前年度、振るわなかったところはそれぞれ反省し、課外活動、運動など各分野で成果を挙げてほしい。本年も良い年になるように力をだし頑張ってください」と激励しました。佐藤忍高校・附中校長ら百五十人近い教職員が出席して、理事長の話に耳を傾けていました。

**高校中庭で餅つき**

この後、北校舎中庭で新年のスタートに弾みをつけようと教職員、生徒らによ

**学園表彰**



理事長、学長らの見守る中できねを持って餅つきをする女子生徒

る高校恒例の餅つきが行なわれしました。家庭科研究部の部員が合わせて三十名の餅米を蒸した後、教員や生徒が用意した石うす、きねで次々につき上げました。後藤泰之学長、佐藤忍校長も後藤淳理事長の見守る中、生徒らの掛け声に合わせて餅をつき、盛り上げました。つきたての餅は部員の手で食べやすいように丸めて、あんこ、きな粉、大根おろしなどをつけて教職員や部活動で登校していた生徒に振る舞われました。

学園は二月十五日、JOCフェンシング大会で優勝した愛工大附属中学校フェンシング部の川北信海選手(三年)



後藤淳理事長(左端)からクラブ表彰を受けた各クラブ顧問らと学園表彰の川北選手(右端)

年)、川嶋範夫部長、小西貴之監督を学園表彰(川北選手の詳細は七ページに掲載)し、「第40回全国高等学校選抜卓球大会」(三月二十三日～二十六日、北海道立総合体育センター)に出席する卓球部など全国大会に出る左記の七クラブをクラブ表彰しました。表彰式は高校校長室で行なわれ、後藤淳理事長が各クラブの顧問らを激励しました。

- ▽自転車競技部▽相撲部
- ▽剣道部▽スキー部▽卓球部▽フェンシング部▽ウェイトリフティング部

# 理事長、学長の平成25年年頭挨拶要旨



後藤泰之学長

あけましておめでとうございませう。昨年、学園創立百周年で、いろいろな行事が執り行われ全て無事に終えることができました。『この百年は本当に平坦な道ではなかった』という話を理事長か



後藤淳理事長

新年おめでとうございませう。今年のお正月は大変いい日でした。この一年、こういった穏やかな日が続くといいと思います。昨年は学園にとり非常に大きな年でした。大正元年、一九

ら聞いています。いろいろなことを乗り越えて現在があるわけで、その時その時にお務めいただいた先輩のご努力に対し感謝しなくてはいいけません。すでに百年は一区切りがつき、次の百年へ向けスタートを切りました。これまでの伝統をますます充実、発展させるのが、我々に課せられた課題であります。私学を取り巻く状況の厳しさは、これからも多分変わりません。それを乗り越えていくには、▽就職に強い▽「ものづくり」は日本一

一二年に（学園の前身となる）名古屋電気学校がスタートしてちょうど百年を数えました。（第二次世界大戦の）終戦まで、名古屋電気学校でできましたが、学制改革を受けて中学、高校、短大、大学と続けて学校をつくり、現在の（学園の）基礎ができました。この八草キャンパスには昭和四十年ごろ、後藤鉦二前理事長と山を見に来ました。「この山の中に、何ができるのだろうか？」と半信半疑でしたが、前理事長の「ここに「ものづくり」の一言で決ま

（と私は自負）▽教育力があるのほか、トータルとして強い大学を目指していくことです。強い大学・愛工大をこの先、百年の一つの課題として一つ一つ積み上げていきたい。目標に向かって力を合わせて、危機を乗り越え、強い大学・愛工大を目指し、頑張りたいと思います。間もなくセンター試験、一般入試も始まりますが、大学としての元旦は新入生を迎える四月一日と思えます。ここで皆さんが学生に『勇氣』と『元気』を与え

り、（大学づくりに）取り組んできました。（新しい年を迎え）思い出ばかり言っているのはだめで、これからの次の百年をどうするか、新たな気持ちで取り組んでいかなければなりません。いよいよ四月へ向けて新しい学生を迎える時（一般入試願書受付）が始まります。いつもお正月に頭に浮かぶのが、志願者数のことで、今年も昨年以上のスタートができればと思っています。学園は創立から「ものづくり」を柱としています。

四年間及び六年間で、社会に役立つ、強い学生を育てていただきたい。百周年の行事はほぼ終えました。が、学生は百周年をあまり意識していないという状況でした。昨年、（それを見ていて）、「百周年に学生を巻き込んだ何かできないか」と思い、客員教授をしてもらっている映画監督の堤幸彦監督とも話をしていました。（本学開学）五十周年記念事業で映画「築城せよ！」をつくりました。参加した学生にも

ここ数年、日本はモノをつくっても売れません。世界で国内でも通用し、求められているモノを創らなければなりません。大学ですの、先生には学生の指導も含めて、「ものづくり」を基礎に置いた取り組みをお願いしたい。昨日、四十八回目と長い歴史を持つ高校吹奏楽部の定期演奏会に行ってきました。音楽は気持ちを落ち着かせ、「ゆとり教育」はいけません。が、「ゆとり」は時には必要で「心の余裕」は大事であると（演奏を）

非常に良かったし、教職員にも協力してもらい、盛り上がりました。そういうものができないかと、堤監督にお願ひし、年度内に（具体化へ）と思っている。学生には一人でも多く声をかけて、映画づくりに参加してもらいたい。映画は「ものづくり」の集大成であり、学生にはいろいろの場面でプロの現場を体験させ、一つの作品を仕上げた感動を体験させ、卒業させたい。皆さんには、映画も含めて本年も、ご協力をお願いいたします。

聞いて痛感しました。幅広く様々な分野に目を向け、認識を深めてほしい。学園のモットーである「創造と人間性」も意義深いものがあり人間性で日本人の持つ几帳面さなど外国人にないものを失ってはならない。また、大学教育の世界では、「少子高齢化」がこれから先、克服し取り組んでいかなければならない一番大きな目標であります。皆さんで力を合わせ（新しい年の）スタートを切りいい年になるように頑張ってください。

### 坪井常世愛工大建築学科教授に後藤鉀二賞

後藤鉀二先生奨学記念会（会長・後藤淳理事長）は1月22日、坪井常世学生支援本部長（建築学科教授）に「平成24年度後藤鉀二賞」を授与しました。昭和49年度から始まった後藤鉀二賞受賞者は、今回の坪井教授を含めると合わせて80人となりました。

「後藤鉀二賞」は昭和47年1月22日に亡くなった後藤鉀二前理事長の遺徳を偲び、学園各設置校の教職員で科学技術、スポーツ振興等で学園の発展に顕著な業績を挙げた人に贈られます。奨学記念会は、坪井教授が昭和52年4月に本学建築工学科講師に就任してから現在にいたるまで、建築電気設備、建築環境工学等を専門分野に建築工学科、大学院工学研究科建設システム工学専攻等及び生産・建設工学専攻等の発展に貢献。さらに学科再編の整備等にも管理運営の経験を活かし尽力、また、電気設備学会の評議員、中部支部理事等のほか照明学会東海支部評議員を務めるなど学会の活動にも多大な貢献をしたほか、大学全体の教学、入試や管理運営面で教学部長（現教学センター長）はじめ学長補佐、入試本部長を歴任し24年4月からは学生支援本部長の要職を務め、教学環境の整備、入試制度改革等の幾多の改革を実施、19年に発足した愛工大教育研究活性化推進プロジェクトでは社会連携貢献プログラムの座長として大学の社会貢献事業の発展に寄与した一として後藤鉀二賞授与を決めました。



後藤鉀二先生の遺影の前で賞状を手にする坪井常世教授

#### 後藤淳理事長が坪井教授に賞状、賞牌などを授与



後藤鉀二賞の坪井教授（前列右から3番目）と後藤淳理事長（同4人目）、後藤泰之学長（同5人目）を囲んで記念の写真を撮る後藤鉀二賞授与式出席者

授与式は八草キャンパスの本部棟2階会議室で、後藤泰之学長ら記念会、学園役員らが出席して行なわれました。後藤鉀二先生の遺影を前に全員で黙とうした後、後藤淳理事長が坪井教授に賞状、賞牌などを手渡し、入試と一緒に静岡へ行った思い出などに触れながら「後藤鉀二賞の受賞、おめでとう。これからは色々な分野でまだまだ頑張ってもらいたい」とお祝いの言葉をかけ、坪井教授も「学園、大学はこれからは発展し続けると、心強く思っています。微力ですが、学園の発展のために今後も労を惜しみません」と謝辞を述べました。

記念写真の撮影の後、坪井教授を囲んで会食をしながら、和やかに歓談しました。

#### 八草キャンパス会場に「秋の紅葉—キャンパス散策とフォトコンテスト」開催

愛工大が一年から八草キャンパスを開放し、紅葉や写真撮影を楽しむでもらう目的で開催している「秋の紅葉—キャンパス散策とフォトコンテスト」が昨年十一月三日に行なわれ、ちようど見ごろを迎えた紅葉を楽しむ大勢のアマチュアカメラマンや家族連れらでにぎわいました。キャンパス

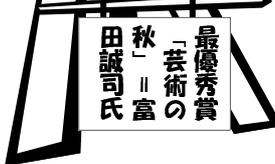
開放当日は時計台のある第1本部棟から3号館にかけて街路樹の葉が黄色、赤色に美しく染まり、散策やフォトコンテストに絶好の日和となりました。カメラを手にした人や家族連れが絶景スポットで足を止めて、素晴らしい景色を満喫していました。

フォトコンテストの応募作品も合わせて五十三点と昨年に比べ大幅に増加。後藤泰之学長を審査委員長に最優秀賞などを決めました。入賞作品は八草と本山両キャンパスで展示。

受賞者は、左記の皆様です。（敬称略）

▽最優秀賞 富田誠司  
「芸術の秋」▽優秀賞 鈴木保彦、水野章一▽入賞 市川信子、長村英一、堀川喜代太郎、後藤徳子、天野晴元、倉田千恵子

▽学長特別賞 河竹菜美  
「芸術の秋」



「芸術の秋」  
田誠司氏  
賞 河竹菜美  
「芸術の秋」

# 高校生の「知の探求心」集めた「A-I-Tサイエンス大賞」開催

「第11回A-I-Tサイエンス大賞」が昨年十一月十七日、八草キャンパスで開催されました。愛工大は、青少年の科学への興味・関心を喚起し、科学立国を支える人材の育成に寄与するこ

とを目的に同大賞を実施しています。今回は愛知、岐阜、三重、静岡の四県から「自然科学部門」に十三校二十二件、「ものづくり部門」に十三校門に十三校十五件の応募がありました。発表に先立

「ださい」と激励しました。両部門に分かれてステージ発表、パネル展示発表Ⅱ写真Ⅱが10号館などを会場に行なわれました。いづれも綿密な調査、実験、ものづくりによる研究発表ばかりで審査に当たった成田国朝工學部長ら本学教員の審査員を悩ませました。



ち後藤泰之学長が「応募論文はいずれも充実しており生徒らの熱意に敬意を表します。他校との研究交流を深め実りある一日にしてく

## 自然科学部門優秀賞受賞校

岐阜・岐阜



一宮C・愛知



富岳館・静岡



## ものづくり部門優秀賞受賞校

向陽・愛知



時習館・愛知



安城農林・愛知



審査の結果、優秀賞などのほか大学の母体、名古屋電気学園創立百周年を記念して長年、「サイエンス大賞」に参加してきた自然科学部門で一宮（愛知）、加茂（岐阜）、ものづくり部門で愛工大名電、佐織（いずれも愛知）にそれぞれ特別賞が贈られました。

### 長年参加校へ特別賞

## 高校吹奏楽部定期演奏会

に立ち、満席の観客に学園創立百周年、吹奏楽部、定期演奏会の歴史等に触れ挨拶しました。この後、伊藤

の名古屋国際会議場・センチュリーホールで昼、夜の部の二回、行われました。OB・OG吹奏楽団も出演し、定期演奏会を盛り上げました。

### OB・OG吹奏楽団も出演し花添える

せて約七十人からなるメンバーが練習の成果をみせ大きな拍手を受けました。



全国大会常連校にふさわしい素晴らしい演奏で、観客を魅了した高校吹奏楽部

宏樹顧問の指揮で学園創立百周年を祝い「ショスタコーヴィチ作曲の「祝典序曲」に始まり、ステージドリルをはさみ演奏。どの曲も全国優勝に輝く卓越した音楽技法、演奏技術を随所に織り交ぜて披露し、感銘を与えました。

また、OB・OG吹奏楽団が、OBで現在、指揮者として活躍中の寺島康朗氏（昭和五十四年卒）の指揮で、昭和四十一年に初めて全国大会に出場した時に演奏した「吹奏楽のための序曲」などを演奏。四十年前から昨年の卒業生まで合わ



定期演奏会へ向け取り組んだ練習の成果を披露するOB・OG吹奏楽団



早朝から続々と試験会場に詰めかける受験生（大学八草キャンパス）

## 平成25年度入試概況

厳しい冬の寒さの中、愛工大附属中学校で一月二十六日、二十七日、愛知県内の私立中学校のトップグループとして行なわれた奨学生・一般入試を皮切りに大学前期日程一般入試、高校推薦・一般入試と続きました。

### 愛工大

前期日程・A方式（記述式）、M方式（マークシート式）の一般入試が一月二十七、二十九日、八草キャンパスのほか自由ヶ丘キャンパス、岐阜、金沢など全国各地の試験会場で行われました。

初日の八草キャンパス会場には早朝から受験生が詰めかけ、ピーク時には構内のバス停から試験会場の10号館まで長い列ができました。受験生は会場の教室内で時間を惜しむように参考書に目をとおり試験開始を待っていました。三日間の試験中、トラブルもなく試験は平穩に終わりました。前期日程は三学部七学科十三専攻の募集人員六百三十七人に對し、志願者総数四千八百八十七人と、昨年を上回りました。

### 愛工大名電高

一月三十日の推薦入試に続きマンモス入試となっている一般入試が二月五日、若水キャンパスを会場に行



初めて一般入試試験会場にあてられ大勢の受験生で埋まった記念館・記念ホール

なわれました。北校舎のほか、昨年まで借りていた近くの大手予備校会場を取りやめ、学園創立百周年記念事業で若水キャンパスに建てられた淳和記念館の記念ホールなどが初めて試験会場に使われました。いづれも大勢の受験生で埋まり、緊張感に包まれていました。受験生は試験監督の教諭から注意事項などを聞いた後、国語から始まる試験に取り組んでいました。志願者総数は、推薦を含めて四人弱（定員は普通科、科学技術科、情報科学科合わせて六百六十三人）でした。

### 愛工大附属中学



問題用紙が配布され、緊張した空気に包まれる附中奨学生入試の試験会場

厳しい冷え込みとなった一月二十六日の奨学生入試では、厚手の服やマスク姿の児童が、正門で進学塾の先生から熱い声援を受け、緊張した面持ちで次々に試験会場へ向かいました。試験開始間際まで問題集などをチェックする児童も見られ、教室内は張り詰めた空気に包まれていました。

試験監督の教諭から試験上の注意を受けた後、国語など各学科の試験に臨み、解答用紙に鉛筆を走らせてきました。受験生に付き添ってきた保護者は、そのまま校内の控え室で試験が終

### 愛工大情報電子専門学校

わるのを待っていました。今回の志願者総数は百五人の定員に對し奨学生、一般合わせて六百八十一人に上りました。

昨年十二月から始まった一般入試が一月十三日、校内で行なわれました。同校は高度情報処理学科（三年制及び二年制課程）など四学科からなり、この日は電子制御、CAD・CAMの両学科を受験する高校生が筆記（数学）と面接の両試験に臨みました。面接はグループ面接で行なわれ、受験生は、教員の質問に真剣な表情で答えていました。



一般入試のグループ面接で試験官の質問に緊張しながら答える受験生（手前）



ロボット交流会で挨拶する後藤泰之学長

設立された「淳和記念館」名古屋市千種区IIで初の試みとして開かれました。愛知工業大学などを擁する工科系総合学園として知られる名古屋電気学園は、「ものづくり」教育の柱と



名古屋電気学園ロボット交流会  
「集え！ロボット大好きっ子」

「名古屋電気学園ロボット交流会」が二月九日、若水キャンパス内の昨年、学園創立百周年を記念して建てられた「淳和記念館の一階オーブンラボで行なわれた開会式で、後藤泰之愛工大学長が交流会参加者らを前に、「この記念館はロボット、ものづくりの施設、環境としては日本一と自負しており、今回の交流会をとおしてさらなるロボット技術、研究の飛躍に繋がることを期待しています」と挨拶しました。引き続き、「レスキューロボット競技会」を皮切りに本大学の奥川研究室（奥川雅之機械学科准教授）の



【写真は、右上が交流会参加者ら、左中がレスキューロボット競技会、右下が末松客員教授による茶運び人形の実演】

ト、伊藤研究室（伊藤暢浩情報科学科准教授）のロボットプレスキューシミュレーション、水野研究室（水野勝教情報科学科准教授）のE.T.ロボットコンテストのデモンストレーションが行なわれました。愛工大名電高専門学科一年生による「第1回ロボットデザインコンテスト」も一階ラウンジ・ラボで開かれました。末松良一大学総合技術研究所客員教授が、からくり人形師・九代目玉屋庄兵衛氏（本学客員教授）の作った「茶運び人形」を使い、からくり人形の実演、解説を行ないました。

レスキューロボットコンテスト、古橋研究室（古橋秀夫電気学教授）の鉄人プロジェクト、

JOCジュニアフェンシング大会で優勝

・カデ男子エペ（十七歳以下）に出場。予選を勝ち抜き決勝トーナメントに進出し、高校選手らを次々に下して見事、優勝を果たしました。また、カデ男子サー

愛工大附属中フェンシング部の川北海選手（三年）がJOCフェンシング大会で優勝に輝き、学園から表彰されました。川北選手は一月十四日、駒沢オリンピック公園体育館（東京都）で行なわれた日本フェンシング協会主催の「第20回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会兼2013年世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会選考会」



学園から贈られた賞状を手にした川北選手と後藤淳理事長

吉村選手が日本代表に

ブルに出場した愛工大名電高フェンシング部の島田翔大選手（一年）も決勝に進み、六位に入りました。同優勝で川北選手は二月三日、スウェーデンで行なわれた「2013フェンシングジュニアワールドカップスウェーデン大会」に日本代表選手として出場しました。学園表彰は高校校長室で行なわれ、後藤淳理事長が川北選手に「これからも頑張ってください」と賞状を贈りました。



愛工大卓球部の吉村真晴選手（経営学科一年）

真IIが、五月にフランス・パリで行なわれる世界選手権個人戦の日本代表選手に選ばれました。日本卓球協会が二月四日に発表した男女合わせて十六人の一人に入りました。ダブルス要員として選出されました。



学生らへの啓発など目的に開かれた「水質汚濁防止法改正に係わる説明会」会場

学内で他の学科に比べて数多くの薬品等を取り扱う応用化学科は、同法改正後に豊田市の指導もあり、大学の母体である学園事務局管理部と協議、学科の入っ

て3号館4階講義室で四年生、教職員を対象に「水質汚濁防止法改正に係わる説明会」を開きました。



地下水汚染を  
防ごう！水質  
汚濁防止法改  
正を受けて！

愛工大応用化学科は二月六日、「水質汚濁防止法改正」（昨年六月施行）を受

# 愛名会だより

門学校学生に企業から企業概況、業種、採用状況等の

愛工大キャリアセンターと学園全体の後援組織、学校法人名古屋電気学園愛名会による「平成二十五年学内企業展」が二月十四、十五日の両日、八草キャンパスの鉀徳館で開催されました。

ている3号館内の研究、実験室に設置してある流し台全部に、「地下水汚染を防ぐための注意書」Ⅱ写真右上Ⅱを取り付け、実験で使ったビーカー等の器具洗浄、試薬、洗浄水の廃液タンクによる回収、流し台排水管の破損・漏洩有無の点検等に取り組んでいます。今回の説明会は、豊田市から「社会人になる四年生の学生にも教育を」との要望を踏まえ、地下水汚濁防止等の啓発も含め開きました。

## 盛り上がる「学内企業展」

情報を収集してもらい、昨年十二月に解禁となった就職活動で役立ててもらえれば」と毎年行なわれていきます。初日は名札を胸ポケットに入れた真新しいスーツ姿の男女学生が、会場入り口前で早くから行列をつくり、熱気に包まれていました。

開会と同時に各ブースとも次々に学生が並び、順番待ちができる企業もあるほどでした。人事担当者らが



初日から学生が詰めかけ、熱気に包まれた学内企業展の会場



緊張した面持ちで人事担当者らの説明に聞き入る学生（2月15日）

スライド、資料を使い、自社で手がけている製品から事業内容、待遇、平成二十五年度の採用見通しなどのきめ細かい説明を行ないました。採用へ向けて独自の会社説明会の案内を行なう事業所も多く、緊張した面持ちで質問し、メモをとる学生の姿も目立ちました。教員やキャリアセンター職員が会場内を回り、学生をブースに誘導したり、相談にのるなどのサポートに努めていました。キャリアセンターのまとめでは、参加学生数は二日間で延べ三千三百四十九人で、企業数は四百九社でした。

## 編集後記

▼後藤淳理事長が学園・大学の年次式で「今年一年が元日のように穏やかに続くことを願っています」と挨拶されました▼日本経済は新政権発足で「円安」、「株高」と明るさが見え始めました▼学園は昨年の創立百周年の各祝賀行事を滞りなく終え、今は次の飛躍に向け力をためている状態です▼大学では学園創立百周年で、まだ大学としてやり残したことがあると動き出しています▼後藤泰之学長が年次式で、「映画づくり」の話に触れ、教職員への協力呼びかけがありました▼映画と言いつと、大学開学五十周年記念事業での劇場用映画「築城せよ！」の製作が思い出されます▼あの時は、映画スタッフが大の寮に泊り込み、学生はもちろん教職員もエキストラを含め、様々な形で参加▼キャンパス内でロケなどが行なわれ、何かと盛り上がりました▼今年も学園は何か、「にぎやか」になりそうです。（久）